

やる気に応えます 金沢大学女性研究者支援

(実施期間：平成 20～22 年度)

実施機関：金沢大学（総括責任者：中村 信一）

プロジェクトの概要

男女共同参画キャリアデザインラボを新規に立ち上げ、積極的に研究を継続し成果を上げるための研究環境整備、次世代女性研究者を魅了するための制度構築、及び啓発・広報活動を行う。女性研究者数、女性リーダーの増加及び女性が生き生きと活躍できる男女共同参画の実現を目指す。①人材バンクおよび情報交換ネットワークとしての人材サロン Women-in-link (WIL)の運営②取得容易な育児・介護休業制度・金沢プランの構築③里山活動を利用し、既存の保育施設と連携した放課後等の学童保育支援の構築④学長裁量経費に女性研究者支援枠を設置及び研究パートナー制度による研究支援⑤優秀な若手女性研究者の雇用・多様なキャリアパスの創出⑥キャリアモデルとなる人材の育成及び発信、講義・講演会・研究会の開催を行う。

(1) 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の 成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者の増加にはマネジメント側に女性が入る必要があるとの認識から女性理事を誕生させ、若手研究者を育てることに目標を置き、当初計画には無かった学長裁量経費による研究費支援など意欲的な取組がなされたことは評価できる。今後は、自然科学系及び上位職階の女性教員の増加に向け、所期計画の着実な実施を期待する。

目標達成度：育成した女性研究者が都市部へ転出するという地方大学が抱える問題がある中で、実態を解析し、公募の際に女性を歓迎する旨の明記や、全学的に適正な人事選考が行われていることを確認する教員人事会議の発足等の対策を行ってきたことは評価できる。今後、理系教員の増加及び、上位職への女性登用を期待する。

システム改革の成果：男性も含めた育児休業制度拡充など男女共同参画のシステム改革を進め、また、理工学系の女性教員採用計画について討議するなど教職員の意識改革を推進した。女性教員の採用割合の増加、自然科学系の女子学生の増加などは、システム改革の成果と評価できる。

取組：全教職員を対象とした事前のアンケート調査に基づき取組が計画されており、ニーズに基づき計画的な修正を行っている。また、女性研究者支援の成果が具体的に発表論文数の増加などに反映されており評価できる。

波及効果：長期休み中の学童教育支援や学会時の一時保育などを、自治体や地域の制度を効率良く利用しつつ実施しており、地域連携の取組として評価できる。

実施体制：学長のリーダーシップの下、男女共同参画キャリアデザインラボを設立し、事業実施体制の中心とし、全学的体制を整備したことは評価できる。

実施期間終了後における取組：予算を確保し、男女共同参画キャリアデザインラボの継続設置をはじめ概ねすべての取組を継続している。また、中期目標・中期計画に女性研究者支援が謳われており、今後の取組の継続性が担保されており評価できる。